この学科の この教授に聞く！

志望学科の基礎知識 ②

社会学部

多面的な問題を抱える現代社会に適応した「サイエンス」

Tetsuro KATO
E-Mail Address
c800231@srv.cc.hit-u.ac.jp

ソシオロジーとソーシャル・サイエンスの違い

日本における社会学教育は、各大学ごとに多様なスタイルをとっています。そもそも社会学（ソシオロジー）とは、生活の共同という観点から人間の社会生活を研究する学問のこと。19世紀初めごろ、従来の政治学や国家学や経済学の範疇では収まらない社会問題が出てきたために、社会をトータルにつかまえようとして生まれた学問なわけですね。このソシオロジーという学問自体は、19世紀後半から20世紀の初め、マルクス、ウェーバー、デュルケムの辺りでほぼ確立しています。

一橋大学の社会学部は、そうした従来のソシオロジーでもとらえられなくなった、さらに新しくて奥の深い現象を理解しようという考えに基づいて、1951年に創設された国立大学で唯一の社会学部です。本学部は狭い意味の社会学をはるかに超えて、社会的存在としての人間の多面的理解、社会諸科学の総合を目指しています。

他の社会諸科学がそれぞれの領域を縦割りにして学問の専門性に基づいて研究するのに対し、社会学部では、各領域を横割りにして、現実に存在している社会問題をさまざまな角度から切っていく多角的アプローチを特徴としています。そのため、学問も思想・哲学、政治学、教育学、社会政策、歴史学、地理学、人類学などが含まれます。もちろん、狭い意味の社会学もその中に含まれますが、それはあくまで一領域。学部全体としては、社会学を含む社会科学（ソーシャル・サイエンス）を学ぶことで、社会現象を解明していく形になっています。

全国的に見て、社会学部は非常に数が少ないのが現状です。本大学といちばん似たスタイルをとっているのは法政大学の社会学部。早稲田大学には社会科学部があります。国立では福島大学に行政社会学部、東京大学などの文学部には社会学科がありますが、前者は地域社会、後者はソシオロジーに限定されており、われわれのいう社会学部とは多少違っています。

グローバルな視点を持った社会学へと移行中！

最近は他の大学にも、社会学をより広い視野からとらえようという動きが見られ、その多くは〝国際〟や〝文化〟をキーワードにしようとしています。本学部では3年前にすでに社会学部の一領域としての「国際社会学」という講座を設置しています。日本でまだ唯一の本講座では、従来の狭い意味の社会学ではとらえきれない民族問題や外国人労働者問題などを多角的にとらえていこうとしています。

そして現在、大学院レベルで設置を検討しているのが、それをさらに進めた「地球社会学」です。つまり、われわれは国際化の時代の次なるキーワードは地球、グローバルだと考えています。こうなるといわゆる社会科学でも収まらなくなるので、自然科学、それも情報科学や環境学といった従来の自然科学の範疇に入らないような領域を組み込んだ形で進めることになるだろうと思います。

あふれんばかりの蔵書が収められている研究室の中、その片隅でさらに大きな仕事の波に向かう加藤先生

現代のさまざまな問題を総合的に理解できる学問

現代の社会で、例えばインターネットの問題を解明する場合、経済、社会、政治、文学などほとんどの学問が関わってきます。ひとつの学問領域では決して全体像は見えてきません。そうした問題への対応に小回りが利くのが、われわれの学部です。前述の外国人労働者問題にしても、都市問題や民族問題という視点から切ることも、政治学的な視点から切ることもできます。つまり、特定の学問より、外国人労働者問題という問題そのものに焦点を当てて、いろんな視点からアプローチをして全体像を明らかにしていくのが社会科学の学び方なのです。常に新しい問題に挑戦することによって、新たな手法も生まれてくる可能性を秘めた領域です。もちろん、例えば私の専門の政治学の授業では、欧米の政治学の理論とか、ロック、ルソーといった古典も学びますが、そのうえで、その先に何を見いだすかというのが、われわれにとって大切なことなのです。

人とは違った視点で物事を考える人におすすめ

社会学部の学生には、既存の学問に飽き足らない、割と型破りな人とか、人とはちょっと違った視点で物事を見たいと考える人が多いようですね。受験勉強や学歴社会に疑問を持っているような人にも向いていると思います（笑）。私自身、出身は東京大学ですが、その権威主義と官僚養成に疑問を持ち、別の形の政治学を学んできたという自負があります。

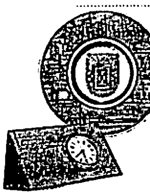
基本的にテーマは学生自身が探すことが多く、社会科学概論の講義でルポルタージュの類いを読んだり、都市問題を扱う場合はフィールドワークを行ったりして、そうした中から自分が関心の持てる問題を見つけてもらいます。つまり、高校までの勉強法を一回壊してもらうわけです。漫画の好きな人なら漫画から問題を見つけても構わない。ただ社会学部に入った以上、自分が好きな漫画を今度は社会現象として見直してもらいたいということです。実際に「日本漫画史」というテーマを卒論にした生徒もいますよ。

私が担当したゼミの生徒の今年度の卒論テーマをざっと挙げると、小林秀雄論、旅とは何か、音楽著作権、日本スキー界の現状、震災ボランティア、将棋界の若手台頭……と玉手箱みたいに何でも出てくるんですね（笑）。学問を受験勉強的に覚えるというより、むしろ政治学のゼミなら政治学的な手法を身に付けて多角的に問題を見る目を養ってもらうことが目的なのでテーマは何でもいいわけです。

本学部はある意味でとてもジャーナリスティックです。実際に、就職先も一橋大学の中では異色にマスコミが多いですね。絶えず問題意識を持つ訓練というのは大学に入ってからでも十分できるし、間口は無限に広がっています。だから、いま現在、自分が何をやりたいか分からない人でも、社会学部にくれば少なくとも後悔はしないと思いますよ。

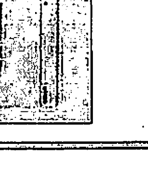
加藤哲郎［一橋大学 教授］

かとう・てつろう 1947年生まれ。
70年に東京大学法学部卒業、88年に一橋大学社会学部教授に。
専攻は政治学だが、「政治は好きでも、政治家は嫌い」が口グセ。
昨年の授業では過労死の問題を扱い、趣味の領域では
「ナチス・ドイツで日本人留学生が何をしていたか」という
テーマで竹下夢二のユダヤ人救出運動を調査中。



［私の愛用品］
加藤先生の研究室を飾るのは、留学生からの贈り物たち。「日本と違い、世界には留学時の自己紹介代わりに配れる、安価で気の利いたユニバーシティ・グッズが多いんですよ」

おすすめ入門テキスト



社会と国家 加藤哲郎著・2000円／岩波書店
「本来、国家というものは社会によって作られる」という考えの下に、加藤先生独自の社会論を展開した1冊。現代の日本社会の〝過労死〟を生み出すような社会構造に関する検討が興味深い。

世間とは何か 阿部謹也著・650円／講談社現代新書
西洋流の「社会」に当たるものは日本には存在せず、あるとすれば閉鎖的で封建的な「世間」？ 一橋大学学長が西洋と日本の社会観を分析した1冊。

昭和天皇の終戦史 吉田裕著・580円／岩波新書

在日外国人 田中宏著・580円／岩波新書

統合と分裂のヨーロッパ 梶田孝道著・620円／岩波新書

言語からみた民族と国家 田中克彦著・980円／岩波書店

アジアを食べる日本のネコ 上智大学社会学部グループ「ペットフード」編著・1000円／梨の木舎

『豊かな社会』日本の構造 渡辺治著・2500円／労働旬報社

競馬の人類学 長島信弘著・480円／岩波新書

JUNE 1996 [日] NO.442

SIT
Saitama Institute of Technology
埼玉工業大学
SiT情報――①
はじめの1歩
'97パンフレット完成しました。
工学部
機械工学科、環境工学科、電子工学科
●資料請求先
埼玉工業大学入試課
〒369-02 埼玉県大里郡岡部町普済寺1690
TEL.0485-85-6814(直)